

海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト

資料ウ
(推進1)

3. 事業の背景・目的(P1)

海外クルーズ船等で訪れる国内外からの観光客をターゲットに「DMOやつしろ」を核とする観光地作りを進め交流人口の拡大と経済効果の発現を目指すもの。あわせて、農産物等の地域特産品プロモーション等を推進し、観光産業および食関連産業の活性化に取り組むもの。

4. 事業の概要（H28～R2年度）(P1)

- ① DMOやつしろ機能強化事業
- ② 大型クルーズ船等インバウンド事業
- ③ 八代市・氷川町・芦北町ブランド事業（シトラスブランディング事業）
- ④ フードバレー流通推進事業

7. 本事業における重要業績評価指標(P3)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
観光客入込数 (人)	目標値	2,475,653	2,429,653	2,616,653	2,668,653	2,770,653	2,805,653
	実績値	2,475,653	2,215,463	2,846,679	2,534,812	2,169,748	
外国人観光客数 (人)	目標値	6,686	3,986	10,586	13,286	15,786	16,786
	実績値	6,686	8,114	268,447	125,405	61,192	
観光消費額 (千円)	目標値	12,367,175	12,173,517	13,114,319	13,379,020	13,894,747	14,071,206
	実績値	12,367,175	9,920,171	14,474,475	13,407,689	12,270,706	

9. 事業の地方創生への効果(P4)

- ③ 地方創生に効果があった
(外国人観光客数は目標値に達成しているものの、観光客入込数が目標値の8割に満たないため)

10. 成果・課題(P4～5)、15. 今後の方針(P6)

成果	課題	今後の方針
観光関連（①DMOやつしろ、②大型クルーズ船、③シトラス）		
・専門的人材の招聘(①) ・職員のスキルアップ（①） ・八代城址周辺開発の実施（②） ・プレミアムツアーの実施（②） ・船社訪問、商談会参加など 県内外へのプロモーション（②） ・海外でのプロモーション活動（③）	・専門的な知識の習得（①） ・専門的な人材（①） ・既存コンテンツを活かした体験商品の造成（①） ・国内クルーズの誘致（②） ・恒久的な情報発信（③）	・専門的人材の活用(①) ・マーケティングの実施(①) ・八代城址周辺、妙見宮周辺運営支援(②) ・既存ブランドの強化、周知(②) ・プレミアムツアー造成やPR活動(②) ・戦略プランに基づくPR事業(③)
フードバレー関連		
・61件の商談、見積り依頼1件成約 (FOOD TAIPEI 2019 ブース出展) ・晩白柚輸出 (リーファーコンテナ利用支援)	・八代産農林水産物等の販路拡大のため海外における認知度向上 ・海外へ進出する企業等の掘り起こし。安定的な商流の獲得。	・観光と連携した見本市出展やフェアの開催 ・国内事業と連携したセミナー等の実施 ・新規事業者による輸出の取組み ・海外のニーズに合った商品開発や販路開拓 ・アドバイザーによる個別相談、事業者訪問

5. 経費内容（R1年度計画）（P2）	8. 事業実績（R1年度）（P3～4）	16. 取組概要（R2年度）（P7）
DMOやつしろ機能強化事業		
29,286千円 ・専門人材の活用 ・観光専門人材の育成教育システム ・重点エリアモニターツアー	23,007千円 ・観光専門人材育成教育システム ・外部人材等の活用 ・マーケティングの実施	19,947千円 ・専門人材の活用 ・マーケティングの実施
大型クルーズ船等インバウンド事業		
◎ソフト事業分 47,614千円 ・お堀舟巡りキャンペーン ・きなっせやつしろキャンペーン ・既存資源の開発及び商品化支援 ・インバウンド対策 ・スポーツツーリズム推進事業の向上	34,866千円 ・八代城址周辺開発 ・宿泊イベント ・体験観光商品開発支援 ・周遊バス運行 ・プレミアムバスツアー ・ファムトリップ事業 ・スポーツツーリズム事業	14,736千円 ・八代城周辺、妙見宮周辺(運営支援) ・既存ブランド強化 ・インバウンド対策 ・地域資源の開発、商品化支援
◎ハード事業分 10,000千円 城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業	9,894千円 城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業	
八代市・氷川町・芦北町ブランド事業		
9,277千円 ・海外等への映像発信 ・魅力発信パンフレットや動画の制作 ・イオンフードアルチザン活動	8,524千円 ・シトラスブランディング事業 ・インバウンドプロモーション事業 ・多言語版パンフレット制作業務	4,913千円 ・観光情報の発信強化 ・イオンフードアルチザン活動
フードバレー流通推進事業		
13,871千円 ・台湾プロモーション事業 ・八代産農林水産物等PR事業 ・リーファーコンテナ利用支援	12,259千円 ・FOOD TAIPEI 2019 八代ブース出展 ・台湾基隆市におけるフェア開催 ・八代産農林水産物等PR補助 ・リーファーコンテナ利用支援	12,794千円 ・台湾プロモーション事業 ・八代産農林水産物等PR事業 ・リーファーコンテナ利用支援
110,048千円	88,550千円	52,390千円

八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

資料ウ
(推進2)

3. 事業の背景・目的 (P8)

八代市は15歳前後の流入人口が全国と比して多い反面、18～20歳前後の転出が非常に多いという特徴がある。本事業は若者の流出を抑制することを目的に、(一社)八代圏域雇用促進センター(愛称:フレシー)を事業の核として、学生に市内企業の魅力を知ってもらう機会を創出すること、また、その手法の一つとして、実践的なインターンシップの制度の構築に取り組むもの。また、移住・定住を促進するための側面支援も併せて実施する。

4. 事業の概要 (H28～R2年度) (P8)

- ① 企業と若者との交流拠点整備
- ② インターンシップの取組を通じて活性化する企業活動・若者の集積を産業振興や定住促進へ繋げるための側面支援事業

7. 本事業における重要業績評価指標 (P9)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
圏域内企業への就職者数(人)	目標値	141	141	144	162	196	245
	実績値	141	140	143	158	143	
圏域への定着率(%)	目標値	91	91	91	92	93	94
	実績値	91	89	86	85	85	
インターンシップ参加学生数(人)	目標値	0	0	53	164	308	485
	実績値	0	0	43	205	637	

9. 事業の地方創生への効果 (P10)

- ③ 地方創生に効果があった
(インターンシップ参加学生数は目標値に達成しているものの、圏域内企業への就職者数が目標値の8割に満たないため)

10. 成果・課題 (P11)、15. 今後の方針 (P13)

成果	課題	今後の方針
交流拠点整備関連(交流拠点整備、成長力強化支援)		
(交流拠点整備) ・インターンシップ参加学生数目標値達成 ・フレシーの新たな取り組みとして、有料インターンシップ(企業から学生へ報酬)の事例があった。 (成長力強化支援) ・認定企業を前年度4社から3社を加え、計7社を支援。事業開始2年目ではあるが、認定企業の売上高が過去最高を記録するなどの実績がでている。	(交流拠点整備) ・中～長期インターンシップを重点的に実施していく必要あり ・フレシー及び事業の継続を見据えた新たな取組の検討が必要である。 (成長力強化支援) ・コーディネータが1名であるため、物理的・時間的に限界あり。 ・コーディネータの専門性を鑑みると安易に増員もできない	(交流拠点整備) ・フレシーによる課題解決型インターンシップ試行 ・フレシーの自走化 (成長力強化支援) ・コーディネータによる支援の継続
側面支援事業(企業人材確保支援、広域連携事業)		
・昨年度より多くの学生ラボ研究生が集い、地域課題、企業課題について学び、解決策を考えることにより、八代市の新たな一面を知る機会づくりができた。	・学生ラボの研究成果を知らしめる機会の工夫が必要。 ・移住相談会は、単年での成果が見えにくい。	・側面支援事業は地方創生推進交付金事業の対象事業ではなくなった。減額となった予算の中で、これまでの取組を活かした今後の展開を考える。

5. 経費内容 (R1年度計画) (P9)	8. 事業実績 (R1年度) (P10)	16. 取組概要 (R2年度) (P13)
企業と若者の交流拠点整備(フレシー)		
22,482千円 ・企業PR策拡大(企業情報紹介冊子、専用アプリの活用) ・域外からの長期インターンシップ受入拡大 ・域内企業への各種セミナーの開催 ・UIターン者相談窓口によるマッチング支援 ・学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート	22,482千円 ・短期及び中・長期インターンシップ637人・246社 ・企業説明会(6,8,11,1月)延67社、延221名 ・企業向けセミナー(7,11月)延115名 ・インターンシップ紹介冊子(Vol.4～7)各5,000部	26,536千円 ・域外からの長期インターンシップ受入拡大 ・UIターン者相談窓口によるマッチング支援 ・学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート ・マッチングアプリを活用したインターンシップ、就職支援 ・域内企業への各種セミナーの開催 ・フレシーの自走化に向けた財源の確保
企業の成長力強化支援		
3,677千円 ・今後成長が期待される「未来チャレンジ企業」を認定し、大学・高専等との連携を含む開発案件を支援 ・「未来チャレンジ企業」に対して、コーディネータによる連携強化、経営力強化支援	3,651千円 ・認定企業3社追加(計7社) 技術的課題の抽出・解決支援 7社 新技術・新商品開発支援等 7社 国県等助成事業の活用支援 4社	3,651千円 ・認定期間満了の企業がないことから、現在の認定企業を継続支援。 ・大学・高専等との連携を含む開発案件を支援 ・コーディネータによる連携強化、経営力強化支援
人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援		
3,201千円 ・ライフプランセミナー(学生ラボ)の開催	3,162千円 ・高校生による地域課題・企業課題研究学生ラボ研究会 全4回 23名 ・研究成果発表会 研究生 18名 来場者61名 ・学生ラボ冊子「8 DAYS」作成・配布 6,000部	(1,600千円) ※推進交付金事業ではない ・ライフプランセミナー(学生ラボ)の開催
定住自立圏構想による広域連携事業		
369千円 ・移住相談会への出展(首都圏)	223千円 ・移住相談会への出展 参加4回(東京3回、大阪1回) 本市への相談者:23人	(224千円) ※推進交付金事業ではない ・移住相談会への出展(東京)
29,729千円	29,518千円	30,187千円

※推進交付金事業分のみ

八代市健康交流のまちづくりを目指したヘルスツーリズム構築事業

資料ウ
(推進3)

3. 事業の背景・目的 (P14)

日奈久温泉を核として「地域資源の活用と観光コンテンツの開発」にも取り組んでおり、（一社）DMOやつしろを中心として自然や食など、本市の特性や強みを活かしたニューツーリズムを構築し観光産業の発展を図ることとしている。

4. 事業の概要（R1～R3年度） (P14)

- ①ヘルスツーリズムに関する構想づくり、事業計画策定、事業推進主体の構築
- ②DMOやつしろの人材育成
- ③健康に関するマーケティング調査、地域資源を活用した健康プログラム造成
- ④地域住民と来訪者に向けたプロモーション
- ⑤日奈久地域にある個々の観光素材のブランディング

7. 本事業における重要業績評価指標 (P15)

指標名		開始	R1	R2	R3
日奈久温泉 宿泊者数(人)	目標値	19,169	19,209	19,269	19,389
	実績値	19,169	22,242		
健康プログラム 開発数（件）	目標値	0	0	10	20
	実績値	0	0		
ヘルスツーリズム 参加者数（人）	目標値	0	0	100	300
	実績値	0	0		

9. 事業の地方創生への効果 (P15)

- ③地方創生に効果があった
(日奈久温泉宿泊者数は達成しているが、残り2つのKPIが稼働していないため)

10. 成果・課題 (P15)、15. 今後の方針 (P17)

成果	課題	今後の方針
ヘルスツーリズム構想の策定		
・マーケティング調査の実施 (インターネットによるアンケート調査で540のサンプルを得た) ・八代市の魅力や現状の把握・確認 ・既存のヘルスツーリズム38事例の調査 ・プログラム案作成(40本)	・地元（日奈久温泉地域）の参画や協力の取付 ・旅行商品として継続して収益を上げるものの造成	・地元の協力を得られるよう、広報や説明会の実施 ・インバウンド事業により、外国人にも参加できる体制の構築
人材育成		
・DMOやつしろを担う専門の人材や後継人材の育成	・週末だけではなく、平日も地元で参画できる体制の構築	地域の実情を把握したうえで、それに基づき、地域の目標を設定できる人材育成。また、その目標を達成できる人材の育成。

5. 経費内容（R1年度計画） (P14)	8. 事業実績（R1年度） (P15)	16. 取組概要（R2年度） (P17)
ヘルスツーリズム構想の策定		体験型プログラム開発及び商品造成
29,000千円 ・日奈久地区にある施設、町並みウォーキング、地元食材など様々な地域資源を活かすためのマーケティング調査 ・ビジョンコンセプト・ターゲットの分析等 ・ヘルスツーリズムに関する戦略及び事業計画の策定	28,000千円 ①マーケティング調査 ・現状調査 ・ビジョン・コンセプト設定 ②ヘルスツーリズムプログラムの具体的検討 ・ニーズの把握、分析 ・事業（案）の検討 ・事業（案）の検証 ③ヘルスツーリズムプログラムの実現に向けた提言 ・事業計画の立案 ・説明会の実施	20,000千円 ※体験型健康プログラムの開発及びヘルスツーリズムとしての商品造成 ・科学的根拠（エビデンス）を踏まえた健康プログラムの開発 ・健康メニュー食の開発 ・健康プログラム、食等を活用したヘルスツーリズムとしての商品造成
人材育成		
2,000千円 関係団体・事業者との連携調整、豊富な地域資源の活用等ヘルスケアシステムの地域への実装を担う・専門的人材の育成	3,000千円 ・DMOやつしろに設置する専門人材の育成 ・人材育成セミナー業務	10,000千円 ・ヘルスケアシステムの地域への実装を担う専門的人材育成 ・ヘルスケアサービスを提供する人材の育成
31,000千円	31,000千円	30,000千円

3. 事業の背景・目的 (P18)

広域交流センターさかもと館（道の駅坂本）は、地域の物産振興・交流の拠点となっている。また、ダム撤去に伴い、球磨川の再生による新たな観光資源が生まれつつあり、この機会を捉え、交流人口の拡大、コミュニティビジネスによる地域雇用の創出を目的として施設整備を実施するもの。

4. 事業の概要（H28～H29年度） (P18)

イベント交流施設の整備

7. 本事業における重要業績評価指標 (P19)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
収入額 （千円）	目標値	0	470	19,745	29,260	30,074	30,476
	実績値	0	303	14,634	16,117	17,657	
来客者数 （人）	目標値	0	300	9,130	13,140	13,290	13,365
	実績値	0	99	7,386	7,497	8,702	
雇用創出数 （人）	目標値	0	0	5	8	10	11
	実績値	0	0	10	10	11	

9. 事業の地方創生への効果 (P19)

③ 地方創生に効果があった

10. 成果・課題 (P18)、15. 今後の方針 (P19)

成果	課題	今後の方針
・ イベント交流施設の整備により 来客数や売上額は増加傾向にある。 ・ 地元の雇用拡大にも繋がっている。	・ コミュニティビジネスのメインが 「食処さかもと鮎やな」であり、 実施期間が限定される。 ・ 移動手段を持たない団体客などの新規 顧客の獲得機会を逃している。	・ PR活動を行い、広範囲からの集客が できるように支援する。 ・ 年間を通して施設の稼働率を上げ、収入の 増加、雇用の創出を図る。

イベント交流施設の整備	
5. 経費内容（H29計画） (P15)	8. 事業実績（H29） (P16)
56,730千円 ・ 施設整備 イベント交流施設増築 厨房の整備 1,000千円 ・ 備品購入 厨房設備 テーブル・椅子等	56,011千円 ・ 施設整備 イベント室 114.80㎡ 厨房 43.20㎡ ピロティ 24.00㎡ 670千円 ・ 備品購入 冷凍冷蔵庫 製氷機
57,730千円	56,681千円

1. 交流拠点施設の活用方針

- ・ 施設の交流促進機能の向上を図るため、交流拡大のためのイベント開催や、体験型観光事業の拠点として、また、地域の食文化の発信拠点として整備を行ったものである。
- ・ 「食処さかもと鮎やな」のコミュニティビジネス
食文化の発信拠点として「食処さかもと鮎やな」のコミュニティビジネスを推進する。
- ・ コミュニティビジネスで展開する他の事業
収穫体験等の農漁業体験、川遊び等の自然体験等においても、交流拠点施設を活用することで交流人口を拡大し、地域の賑わいと活力の醸成に取り組む。

2. 「食処さかもと鮎やな」のコミュニティビジネス（成果と今後の方針）

- （成果）
- ・ H 3 0 年度から R 1 年度にかけて、チラシを作成し観光施設や市内企業、自治会、各種団体等に配布し P R を行った結果、来客数及び売上額が増加した。さらにバスツアーの参加者が、個人客として再度来店されたことも要因の一つである。
 - ・ 営業日数の増加により、雇用の拡大にも繋がった。

- （今後の方針）
- ・ 「食処さかもと鮎やな」の R 2 年度の営業は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛などの影響で、集客が見込めないことから、中止が決定された。
 - ・ しかしながら、 R 2 年度は、ジビエ料理や山菜等を使用したメニューの開発、ばたもち、鮎等の地元素材を使用した加工品の商品化、既存商品の改良に取り組む。
また、ジビエ・山菜料理等の営業を検討する。

3. コミュニティビジネスで展開する他の事業

- 新型コロナウイルスの収束を踏まえ、各団体と今後の取り組みについて、次のような事業の実施を協議する。
- 〈坂本町山村活性化協議会〉
販売・流通部門において地元食材を活用した加工品の開発及び試作を行い、商品化したものを出荷する。
- 〈坂本住民自治協議会〉
料理教室等の食体験イベントの会場として活用する。
- 〈川遊び民間団体〉
N P O 坂本再生プロジェクト（S S P）、R e b o r n などの団体が、カヤック体験等の川遊びイベントを開催し、川遊び交流拠点施設と連携して施設の利用を促進する。
また、レスキューやカヤック等の講習会の会場として活用する。
- 〈さかもと温泉センター株式会社〉
グラウンドゴルフ大会等のイベント開催や、坂本町生活研究グループ等の地域活性化グループと連携して、坂本町特産品（ばたもち、かずら豆腐の味噌漬け等）の販売活動の場として活用する。